

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンアカモンコウシガクイン 学校法人赤門宏志学院								
フリガナ大学の名称	センダイアカモンタンキダイガク 仙台赤門短期大学								
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉33番1								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、必要な専門知識及び技術を深く授け、地域社会に貢献し得る材育成を目的とする。								
新設学部等の目的	東洋医学の伝統と現代的な医療技術を統合し、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の高度な技術と知識を持つ医療人材を育成すること目的とする。東洋医学の深い理解と科学的根拠に基づく臨床技術の習得とともに、国際的な医療文化の変化に対応し、WHOが認める伝統医学の一環として、東洋医学の発展に貢献することも目指している。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	鍼灸手技療法学科	3年	50人	-	150人	短期大学士（鍼灸手技療法学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和7年4月第1年次	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉33番1
計	3	50	-	150					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	鍼灸手技療法学科	講義	演習	実験・実習	計	106単位			
		40科目	16科目	4科目	60科目				
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
			教授	准教授	講師	助教	計		
	鍼灸手技療法学科		4人 (4)	1人 (1)	2人 (2)	3人 (3)	10人 (10)	- (-)	22人 (12)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	/	短期大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数6
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
	小計（a～b）		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
計（a～d）		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)			
計		4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	- (-)		
既設	看護学科		6 (6)	3 (3)	4 (4)	6 (6)	19 (19)	4 (4)	57 (57)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事		6	3	4	6	19		短期大学設置基準別表第一イに

設	する者であって、主要授業科目を担当するもの		(6)	(3)	(4)	(6)	(19)		定める基幹教員数の四分の三の数6	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		-	-	-	-	-			
	小計（a～b）		6 (6)	3 (3)	4 (4)	6 (6)	19 (19)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		-	-	-	-	-			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		-	-	-	-	-			
分	計（a～d）		6 (6)	3 (3)	4 (4)	6 (6)	19 (19)			
	計		6 (6)	3 (3)	4 (4)	6 (6)	19 (19)			4 (4)
合計			10 (10)	4 (4)	6 (6)	9 (9)	29 (29)	4 (4)	79 (69)	
職種			専属		その他		計			
事務職員			5 (5)		4 (4)		9 (9)			
技術職員			0 0		0 0		0 0			
図書館職員			1 (1)		0 0		1 (1)			
その他の職員			0 0		0 0		0 0			
指導補助者			0 0		0 0		0 0			
計			5 (5)		5 (5)		10 (10)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	0 m ²	14005.00 m ²	0 m ²		14005.00 m ²				
	その他	0 m ²	0 m ²	0 m ²		0 m ²				
	合計	0 m ²	14005.00 m ²	0 m ²		14005.00 m ²				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計					
		8627.33 m ² (0m ²)	0m ² (8627.33 m ²)	0 m ² (0m ²)		8627.33 m ² (8627.33 m ²)				
教室・教員研究室		教室	20室	教員研究室	27室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点			
	鍼灸手技療法学科	4,680 [22] (4,680 [22])	[0] ([0])	21 [0] (21 [0])	[0] ([0])	270 (270)	123 (123)			
	計	4,680 [22] (4,680 [22])	[0] ([0])	21 [0] (21 [0])	[0] ([0])	270 (270)	123 (123)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				
		1725.05 m ²		0m ²		605.19m ²				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円				
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円				
		図書購入費	356千円	2,035千円	2,035千円	2,035千円				
	設備購入費	84,133千円	0千円	0千円	0千円					
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,650千円	1,400千円	1,400千円						
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、雑収入								

既設大学等の状況	大学等の名称	仙台赤門短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	看護学科	年 3	人 80	年次人 -	人 240	短期大学士(看護学)	倍 0.84	平成30年度	宮城県仙台市青葉区 荒巻字青葉6番41
附属施設の概要		該当なし							

- (注)
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
 - 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
 - 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人赤門宏志学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
仙台赤門短期大学			
看護学科	80	—	240
計	80	—	240
仙台赤門医療専門学校			
鍼灸マッサージ東洋医療科	50	—	150
柔道整復医療科	30	—	90
鍼灸医療科第二部	0	—	0
計	80	—	240

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
仙台赤門短期大学				
看護学科	80	—	240	
鍼灸手技療法学科	50	—	150	学科の設置(認可申請)
計	130	—	390	
仙台赤門医療専門学校				
鍼灸マッサージ東洋医療科	0	—	0	令和7年度4月 学生募集停止
柔道整復医療科	0	—	0	令和7年度4月 学生募集停止
鍼灸医療科第二部	0	—	0	令和6年度4月 学生募集停止
計	0	—	0	

教育課程等の概要																
(鍼灸手技療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(除く)の教員
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	心理学	1前		2			○								1
		論理学	1後		2			○								1
		社会学	1後		2			○								1
		中国語	1前			2		○								1
		英語	1前			2		○								1
		漢文学	2前			2		○								1
		健康と運動	2前			2			○		1					1
		コミュニケーション理論と実践	1後		○	1			○							1
		プライマリーセミナー	1通	○	○	2			○		4	1	2	3		
		アドバンスセミナーⅠ	2通	○	○	2			○		4	1	2	3		
		アドバンスセミナーⅡ	3通	○	○	2			○		4	1	2	3		
小計(11科目)	—	—	—	13	8	0	—	—	4	1	2	3	0	7		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1前		3			○			1					
		解剖学Ⅱ	1後		3			○			1					
		生理学Ⅰ	1前		2			○							1	
		生理学Ⅱ	1後		2			○							1	
	運動学	2通		2			○							1		
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	衛生学・公衆衛生学	1通		2			○								1
		病理学概論	2通		2			○								1
		リハビリテーション医学	1通		2			○								1
		臨床医学総論	2通		2			○								1
		臨床医学各論Ⅰ	2通		2			○								1
	臨床医学各論Ⅱ	3通		2			○								1	
	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	医療概論	1前		1			○								1
		法律学の基礎と関係法規	3後		1			○								1
		漢方医学概論	3前		1			○								1
		統合医療基礎	3後		1			○								1
		整備概論	1後		1				○							1
小計(16科目)	—	—	—	29	0	0	—	—	0	1	0	0	0	12		
専門分野	基礎あん摩マッサージ指圧学・基礎はり学・基礎きゅう学	東洋医学概論	1通		2			○			1					
		経絡経穴概論Ⅰ	1前		2			○			1					
		経絡経穴概論Ⅱ	1後		1			○				1				
		按摩マッサージ指圧理論	2通		2			○					1			
		鍼灸理論	2通		2			○					1			
	臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゅう学	東洋医学各論	2通		2			○					1			
		東洋医学診断法	2通		2			○			1					
		東洋医学臨床論Ⅰ	2前		2			○								
		東洋医学臨床論Ⅱ	2後		2			○						1		
		東洋医学臨床論Ⅲ	3通		2			○						1		
		経絡治療Ⅰ	2通	○	2			○				1				
		経絡治療Ⅱ	3通	○	2			○				1				
	社会あん摩マッサージ指圧学・社会はり学・社会きゅう学	疼痛学	3前		1			○					1			
		看護学と東洋医学連携論	3通	○	2			○					1		3	オムニバス形式・共同(一部)
	実習	手技療法基礎実技Ⅰ(按摩)	1通		2				○				1			
		手技療法基礎実技Ⅱ(マッサージ)	1通		2				○					1		
手技療法基礎実技Ⅲ(指圧)		1通		2				○					1			
鍼灸基礎実技		1通		2				○					1			

	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅰ	2通	○	4				○		1							
	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅱ	3通	○	4				○		1							
	鍼灸臨床基礎実習	2通		2				○		1							
	鍼灸臨床応用実習	3通		2				○		1							
臨床実習	臨床実習Ⅰ	1前		1				○		4	1	2	3				
	臨床実習Ⅱ	2前		1				○		4	1	2	3				
	臨床実習Ⅲ	2後		1				○		4	1	2	3				
	臨床実習Ⅳ	3前		1				○		4	1	2	3				
	小計(26科目)	—		50	0	0		—		4	1	2	3	0	3		
統合領域	ヘルスプロモーション鍼灸学	3通	○	2				○		1							
	デジタルサイエンス伝統医療(入門)	3通	○	2			○									1	
	手技療法応用実技Ⅰ	2前	○	1				○				1					
	手技療法応用実技Ⅱ	2後	○	1				○		1							
	関節モビライゼーション・操体法	3前		1				○					1				
	通電療法	3通	○	2				○		1							
	鍼灸手技療法経営論	3後		1			○		1								
	小計(7科目)			10	0	0		—		3	0	1	1	0	1		
合計(科目)		—	—	102	8	0		—		4	1	3	2	0	22		
学位又は称号	短期大学士(鍼灸手技療法学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)												
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
基礎分野必修13単位、選択4単位以上合計17単位以上履修し、専門基礎分野必修29単位、専門分野必修50単位、統合分野必修10単位を修得し、卒業要件合計106単位以上を修得すること。 (履修科目の登録上限：47単位(年間)) なお、基礎分野の選択科目のうち「中国語または英語」「漢文学または健康と運動」から各2単位を選択必修とする。									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業の標準時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要

(鍼灸手技療法学科)

科目 区分	授業科目 の名称	主要授 業科目	講義等の内容	備考
基礎分野	科学的 思考の 基盤と 人間・ 社会の 理解	心理学	「心」の概念と医療応用を探る講義で、心理学の科学性、歴史、人類史と脳機能から心の起源を概観し、脳と心の相互作用に焦点を当てる。性格や個性の心理テストの信頼性、医療現場での利用、知能測定の意味、学習能力、コミュニケーションスキル、心理的正常と異常の区別について学び、医療現場での心の活かし方について洞察を深める。心理学と心身医学の交点、心と身体の相互作用も考察する。	
		論理学	あはき師に必要な論理的思考力と表現力の強化を目標とする授業である。論理の基本から始め、言語の論理的表現、情報処理の論理性、科学と自然界での論理性を解析し、計算と論理の関係性、共通点を探求する。論理を超越する可能性も考察し、授業の最後に内容を振り返る。この講義を通じ、多様な状況に論理的かつ効果的に対応するスキルと知識を習得し、患者ケア、チームコミュニケーション、自己成長に寄与する能力の向上を目指す。	
		社会学	社会学の基本概念とその医療への応用を学ぶ。社会学の定義と基礎概念の説明から始め、保健医療における社会学的視点を導入し、社会学の問題を医療文脈で解釈する。健康と病気の認識の時代・文化的変化、働き方や社会的格差の健康影響、医療現場での患者と医療者の関係性、医療専門職の社会的責任に焦点を当てる。性・ジェンダー議論を通じて医療の多面性を理解し、地域社会との関わり、保険医療制度、ケアの重要性、現代医療課題への社会的対応を学ぶ。医療者の社会的責任自覚と果たし方について考察する。	
		中国語	授業は、中国語の発音と基本的な文法の学習に重点を置き、医学的知識と語彙を中国語で習得することを目指す。基礎知識と発音から始まり、あいさつ、基礎構文、自己紹介、日記、買い物、疾病表現、中医学の読解、旅行用語、経験の話し方に至るまで、幅広いトピックをカバーする。最終回では、学んだ内容を踏まえたオリジナルの文章を書き、発表する。	
		英語	日本語を母語としない患者との適切なコミュニケーションを目的とする。授業で治療や受付での基本的英語表現、医療面接での専門英語、身体観察・評価時の英語フレーズ、施術過程の一般・専門用語、治療後の表現と会計処理の英語を学ぶ。実践練習を通じ、非母語患者と効果的にコミュニケーションするスキル習得を目指す。全体的に、治療者が非母語患者とコミュニケーションするための専門用語や一般表現を教えることが目的である。	
		漢文学	漢文を用いた東アジア伝統医学文献の読解スキル習得を目指す。初回授業で概要把握後、漢文読解テクニックを学ぶ。『靈樞』など古典文献を詳細に読解し、医学知識と治療法を探る。本草書の歴史、読み方、伝統医療倫理を習得し、『傷寒論』『千金方』『素問』等の名著の注釈や解釈を解説。老年医学の知識を含め、東アジア医学を広範に理解し、日本独自の漢文医書も学び、医学的知識と視点の違いを明らかにする。全講義で東アジア医学への理解と漢文読解能力を高める。	

科目 区分	授業科目 の名称	主要授 業科目	講義等の内容	備考
	健康と運 動		<p>(概要) 超高齢社会では健康を保持・増進することが重要なテーマであり、運動の重要性が指摘されている。医学の対象も病気を治すことから、病気予防、健康の維持などその範囲が広がっている。本授業では、はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師に必要な健康と運動についての知識と実践力を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(1 宮本 俊和/12回) 東洋医学の健康観、特に未病の治療法、健康維持に必要な栄養、運動、休養の重要性、超高齢社会における運動の必要性、健康づくりのための運動及びその方法の種類、アクティブシニアと鍼灸手技療法、生活習慣病と運動、フレイル(虚弱)と介護予防、地域社会での健康指導、運動法、温泉療法、手技療法を用いた健康法について学ぶ。</p> <p>(1 宮本 俊和・16 笠原 岳人/3回) (共同) ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の理解、その測定方法、及び新体力テストに焦点を当てた授業内容を担当する。具体的には、ロコモティブシンドロームとは何か、それをどのようにして測定するか、そして新体力テストを通じて個人の体力と運動能力をどのように評価するかについて学ぶ。ロコモティブシンドロームの予防と管理に必要な運動の役割と重要性を強調し、運動による健康促進と疾病予防の実践的な知識を提供することを目的とする。</p>	オムニバス形式・共同(一部)
	コミュニ ケーション 理論と 実践		<p>コミュニケーションの基本概念の理解と日常での活用スキル習得を目的とする。現代社会で求められるコミュニケーション能力の具体的な活用法を学ぶ。情報伝達、意味解釈、文化などの要素から多様な立場や状況を理解し、円滑なコミュニケーションを実現するスキル(アサーション、ファシリテーション、コーチング)を習得。自己理解、他者理解、相互理解を深め、人間関係構築からコミュニケーションを捉え、社会で活躍するコミュニケーション能力を醸成し、プロフェッショナルな医療人を目指す。説明と実践的演習で進め、積極的な態度とオープンマインドを求めらる。</p>	
	プライマ リーセミ ナー	○	<p>このプライマリーセミナーでは、中等教育から高等教育への学習環境の変化にスムーズに移行することを目指す。環境や大学生活に慣れるための各種の指導を行い、受動的な学習スタイルから自発的・協働的なスタイルへ転換できるようにする。さらに、将来の就職や人生設計へ繋がるよう、外部講師を招いて交流することで、幅広い教養と身につけ、多様な選択肢があることを学ぶ。</p>	主要授業科目
	アドバ ンスセミ ナーI	○	<p>1年次のプライマリーセミナーの内容をふまえ、さらに発展させた授業である。東洋医学における研究方法を学び、学術的な理解を深めることを目的とする。学生は、基礎知識を学ぶだけでなく、実際に学会会議への参加を通じて知識を活用する。少人数制で指導を行う。研究テーマの選定から実践的な調査実施、結果の分析と発表までを経験し、医療人としての基礎教養を身につける。このプロセスを通じて、学生は独自の研究を設計し、実施する能力を養うとともに、学術コミュニティや他職種との連携に向けたコミュニケーションスキルも磨くことができる。</p>	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	アドバンスセミナーⅡ	○	1年次・2年時に配置されている各セミナーの内容をふまえ、さらに発展させた授業である。この講義では、東洋医学の専門性を深め、コミュニケーション能力の強化、そして医療連携及び地域への貢献を目的とする。学生は、国家試験への心構え、地域医療との連携、特に看護分野との連携についての学習を通じて、専門知識と実践的なスキルを習得する。また、就職活動に向けたキャリア支援も行われ、学生は総合的な能力を身に付けることができる。	主要授業科目
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	「解剖学Ⅰ」の授業では、人体の構造と働きに関する基本的な知識と、それらが臨床疾患とどのように関連しているかについて学ぶ。授業内容には、細胞構造、体表構造、人体の区分、各器官系(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系)に関する総論と詳細な解説が含まれる。	
		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱでは、人体の運動器系に重点を置き学ぶ。骨、筋、関節の各部位に焦点を当て、それらの構造と機能を詳細に理解する。また、体表解剖と局所解剖学の実習を通じて、臨床的な視点から解剖学の重要性を深く学ぶ。この授業は、医療分野における実践的な知識と技術の基礎を築くことを目的とする。	
		生理学Ⅰ	生体の機能についての全般的な知識を学ぶ。特に、生理学の基本から、循環、呼吸、消化、代謝、体温調節、排泄などのテーマにおける医学用語と概念の理解と、それらを図式化するスキル習得に焦点を置く。細胞構造、物質代謝、体液の機能から始まり、血液循環、リンパ系、呼吸器の構造、換気とガス交換、消化プロセス、肝臓の働き、栄養素の代謝、体温調節メカニズム、腎臓の機能と尿生成に至るまで広範にわたる内容を扱う。	
		生理学Ⅱ	この講義は生体の機能に焦点を当てる。神経系の働き、ニューロンの興奮伝導、シナプスによる情報伝達、筋肉の構造と動き、特に骨格筋の収縮とエネルギー供給、基本的な感覚機能、内分泌系のホルモン機能、生殖、成長、老化の生物学的ライフサイクル、免疫系、身体運動の協調性などを扱う。用語や定義の理解と図式化能力の育成を目指し、生体の複雑な機能への包括的理解を深める。	
		運動学	解剖学の基礎知識に基づき、運動学と運動力学の基本を深めることが目的である。オリエンテーションと運動学の基本概念から始まり、身体運動、軸の概念、運動の法則へと進む。骨と関節の構造、機能の詳細な探究、立位体前屈、上下肢運動学、握力計測、重心と重心線、歩行メカニズム、背筋力計測を学ぶ。学生は解剖学、運動学、運動力学の相互作用と身体動作の基礎知識を習得する。	
疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	衛生学・公衆衛生学		人間の健康に影響する多様な要因を総合的に学ぶ。衛生学、公衆衛生学の意義、健康の基本概念、健康増進方法、医療制度、食品と健康、環境問題などが扱う。食中毒の対策、職場・学校・家庭での健康維持、産業・学校・精神保健、保健統計についても学び、母子保健から高齢者保健まで、ライフステージに応じた健康管理を探る。感染症の予防と対策、消毒法、疫学の基礎知識も習得する。広範な知識と実用的スキルの習得を目指す。	
	病理学概論		病理学の授業では、病理学の基本概念と生理学の復習に焦点を置く。疾患の基本的な考え方から始め、病因、循環障害、退行性と進行性の病変、炎症メカニズム、腫瘍性疾患の成因、診断、治療、免疫系の異常、アレルギー、先天性異常まで幅広く学ぶ。この授業を通じて、病理学の理解を深め、生理学との関連性を掴み、疾患の成因、進行、治療に対する多角的な理解を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	リハビリテーション医学		臨床現場でのリハビリテーション医学基礎習得を目指す。リハビリテーションの基本理念、障害の生活影響、多様な分野とチームアプローチ、地域リハビリテーションの重要性を学ぶ。評価手法としてROM、MMT、ADLを含む多角的視点からの患者状態把握方法を習得。合併症、運動麻痺、心理的側面評価スキルを磨く。治療面では理学療法、装具療法、リハビリテーション看護を網羅し、疾患別リハビリテーション手法を学ぶ。多様な患者対応スキルと知識習得を目指す。	
	臨床医学総論		東洋医学の臨床医学基礎を習得を目指し、診察の基本フロー、医療面接技術に焦点を置く。視診、触診、打診、聴診の手法、生命徴候の測定、全身・局所・神経系診察、運動機能検査基礎を学び、特定患者層への診察方法を考察。臨床検査法、症状別診察法、鍼灸手技療法の治療手法を総括し、臨床心理からの患者コミュニケーション方法を学ぶ。鍼灸手技療法に必要な臨床医学基本を習得し、適切な診察とケア提供を目指す。	
	臨床医学各論Ⅰ		疾患の疫学、成因、症状に焦点を当てる授業で、感染症から始まり、消化器系、肝胆膵、呼吸器、腎泌尿器、内分泌、代謝栄養、循環器、血液造血疾患まで幅広く扱う。各カテゴリに対し、セッションを割り当て詳細に解説し、包括的な理解を目指す。学生が疫学、成因、症状を深く理解し、将来的に医療現場での適切な診断と治療に役立つ基礎知識を習得することが目標。臨床設定での知識適用にも焦点を置き、医療の質向上を目指す。	
	臨床医学各論Ⅱ		治療者に必要な現代医学の基礎知識を疾患診断と治療の観点から学ぶ。学生がこの知識を実践に応用できる能力を修得することが目的である。整形外科分野では、骨代謝、筋腱疾患、形態異常、脊椎、脳血管、感染性、基底核変性、認知症等の神経系疾患、筋疾患、運動ニューロン・末梢神経疾患、リウマチ・膠原病、小児疾患、一般外科、麻酔科、婦人科、皮膚科、眼科・耳鼻科、精神科疾患、心療内科まで、幅広く学ぶ。多岐にわたる内容を通じ、疾患ごとの診断と治療の全体像を把握し、臨床現場での実践を目指す。	
	医療概論		この授業は医学と医療の歴史、及び医療倫理の基礎を学ぶ。古代から現代の医学進展を概観し、東洋医学だけでなく、西洋医学にも焦点を置く。代替医療、社会的連携、医療機関の役割、医療行政、保険制度についても探求する。医療倫理の議論を通じ、医療と倫理の関係、医療者と患者の関係構築についても学ぶ。この授業を通じて、鍼灸手技療法の実践に必要な医学と医療の歴史的・倫理的背景の理解を深めることを目指す。	
保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	法律学の基礎と関係法規		この授業は、あん摩師が保健・医療・福祉に貢献するための法的思考と職業倫理を学ぶ。法学基礎、関係法規、医師法、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師法を含む医療制度と法の関係学び。生命倫理、人権観点からの責任と倫理について議論し、実務に活かせる法的知識と思考力の習得を目指す。	
	漢方医学概論		この授業では、東洋医学に基づく漢方薬の基本原理解、成分、効能について学ぶ。授業では、漢方薬の歴史とその治療法の概要、さまざまな生薬の特性と配合方法、現代医学との関連性に焦点を当てる。この授業を通じて、漢方薬の理解を深め、その知識を現代の医療や健康維持に応用する方法を探る。	
	統合医療基礎		この授業では「東洋医学における統合医療」をテーマに、様々な東洋医学、如く薬膳、気功、アロマセラピー、ヨガ、アーユルヴェーダを総合的に学び、これらを融合させる技術を習得することを目指す。東洋医学の基本原則と現代治療法の応用可能性を探求し、実践的な技能の習得により、専門性を高める。授業を通じて、患者の身体的、精神的、感情的健康を総合的に支援する能力の向上を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		整復概論	骨折や脱臼、捻挫、筋肉損傷などの外傷について、発生原因・症状などについての学び、また理解するうえで必要な骨や関節、靭帯、筋肉などの構造の基本的な内容の理解と、治療法として使用される包帯やテーピング、物理療法などの概要について学び、これから学ぶ様々な内容についての土台を身に着ける。	
専門分野	基礎あん摩マッサージ指圧学・基礎はり学・基礎きゅう学	東洋医学概論	前期は東洋医学の基礎概念となる陰陽五行学説、生理物質について学ぶ。後期は各蔵象の生理・病理を学び、2学年で学ぶ病証への足掛かりを作る。	
		経絡経穴概論Ⅰ	経絡経穴は、鍼灸臨床を行う上で欠かせないものであり、鍼灸師になるには必ず修得しなければならないものである。本科目では、経絡・経穴の概要、取穴法、十四経脈とそれに属する経穴、奇経八脈、奇穴、要穴について学習する。将来の鍼灸臨床で活用できるように、骨や筋などの体表解剖を理解した上で、経絡や経穴の名称と部位を修得することを目的とする。	
		経絡経穴概論Ⅱ	本科目では、鍼灸師が鍼灸臨床に用いる経絡や経穴を学習する。「経絡経穴学Ⅰ」で学習した知識を基に、実際に人体に取穴し、経穴の部位を学ぶ。経絡と所属する経穴の部位を理解し、取穴する技術を修得することを目標とする。	
		按摩マッサージ指圧学・基礎はり学・基礎きゅう学	あん摩マッサージ指圧の意義、沿革、基本手技とその作用、循環器系、神経系、皮膚、筋、関節、消化器、呼吸器等に及ぼす作用、運動法の生体におよぼす作用、治療効果、あん摩マッサージ指圧の応用分野及び併用する物理療法などを学ぶ。「按摩手引」で言われている古法按摩を学ぶ。 手技に関する理論、保健マッサージによる17-KSへの影響、背部一点圧による手部血流への影響および、多くの人々の研究理論を学び理解する。按摩マッサージ指圧以外にも多くの手技療法があることを学ぶ。教科書やプリントを使って、理解できるようにする。	
		鍼灸理論	手技および研究から鍼灸の治効機序を理解する。鍼灸の治効機序を手技や研究を通じて理解することを目的としている。体性感覚、感覚の受容と伝導、自律神経反射をキーワードに、鍼灸刺激の神経生理学的基礎とその反射メカニズムについて学ぶ。授業では、鍼の基礎知識、刺鍼の方式と術式、特殊鍼法、灸の基礎知識など、鍼灸治療の基礎から応用まで幅広い知識を網羅する。また、リスク管理や安全対策に関する教育も含まれる。	
	臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゅう学	東洋医学各論	東洋医学各論の授業では、五臓六腑の相互・協調関係、病因・病機、弁証方法・治則・治法の機序を学び、これらを基に病因を説明できるようになることを目指す。授業内容は五臓六腑の関係、経絡の概念・機能、病因・病機、弁証方法、治則・治法に及ぶ。東洋医学の理解を深め、日常生活に活かすことが期待される。	
		東洋医学診断法	この授業「東洋医学診断法」では、問診や医療面接から始め、東洋的および西洋的診断法を学ぶ。主に腰痛、坐骨神経痛、膝関節痛、頸・上肢痛、五十肩などの疾患を扱い、それぞれの病態や診断法を詳細に学ぶ。評価は定期試験の結果に基づき行う。	
		東洋医学臨床論Ⅰ	この授業では、西洋医学の視点から疾患や症状を理解することに焦点を当て、東洋医学の理論を統合する。授業では、頭痛、顔面痛、顔面麻痺、歯痛、目の疲れ、鼻詰まり、脱毛、めまい、咳、喘息、胸痛、腹痛、吐き気、月経障害、肩の痛みなど多様な医療トピックを取り扱う。	
		東洋医学臨床論Ⅱ	臓腑と関連する症候(肝系統・心系統・脾系統・肺系統・腎系統)についての適応・不適応の鑑別する。また東洋医学的・西洋医学的な考え方の病態・症状から、各疾患の鑑別方法について学習し、臨床に活かせる知識を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	東洋医学臨床論Ⅲ		スポーツ東洋療法に関する専門知識、各競技の 1)総論、2)実際、3)現状、4)鑑別診断、5)各疾患を学習する。また各種目の発生しやすい障害とその対処を学習し、技術向上獲得を目的とする。	
	経絡治療Ⅰ	○	日本独自かつ伝統的な鍼灸治療方式である「経絡治療」の思想、および診断と治療の手順を習得する。この授業を通じて、日本鍼灸の歴史を学び、経絡治療特有の診断から治療に至るプロセスを習得する。授業内容は、経絡治療の基礎理論、病理病証の分析、診断技術の習得、臨床基礎技術に及ぶ。	主要授業科目
	経絡治療Ⅱ	○	日本独自の伝統鍼灸技術である経絡治療のシステムを理解し、実際の臨床応用するための技術を習得する。邪正一如や五臓の根焼き、管鍼術による浅刺多穴置鍼術、接触鍼、井上式知熱灸など、具体的な治療技術に焦点を当てる。授業では、経絡治療に関する基本から応用までの広範な知識を扱い、病態の鑑別と随証治療、臨床技術の向上を目標にする。	主要授業科目
	疼痛学		生体にとっての警告信号である「痛み」の多元性や、その評価から臨床病態および治療の根拠を学習する。痛みの受容と伝導、病態の理解、痛みの評価能力の習得を目指す。授業内容は痛みの定義、社会的側面、神経解剖学、神経生理学、運動器の痛み、疼痛の心理、臨床病態、多面的評価と治療に及ぶ。	
社会あん摩マッサージ指圧学・社会はり学・社会きゅう学	看護学と東洋医学連携論	○	<p>(概要) 看護学と東洋医学の連携に焦点を当て、看護学の基本概念、看護の各専門領域、看護過程、東洋医学の活用方法、多職種連携、介護技術、緊急時対応、認知症の理解と対応策、地域包括ケアシステムなどを網羅している。看護学の定義と概念を理解し、看護の専門領域の特徴を説明できるようになり、地域での東洋医学の利用と専門職間の連携方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)</p> <p>(30 平尾由美子・31 菊地真/15回) (共同) 前期15回は、看護学の基本概念(定義、役割、機能、歴史、理論)、看護過程の理論と実践、さらに成人、高齢者、小児、母性、精神看護学の位置づけと特徴、そして地域・在宅看護論を含む各分野の概要とその病院・施設・地域での役割について学ぶ。また、地域・在宅での生活・療養する人々の健康ニーズとチームアプローチに焦点を当て、看護職の多様な役割と看護過程の実践方法を探る。</p> <p>(6 武藤永治・29 平栗辰也/15回) (共同) 後期15回は、東洋療法と看護の連携、医療・介護保険下での東洋医学と鍼灸手技療法の活用、福祉施策での利用、介護支援専門員と機能訓練指導員の役割、緊急時対応(救命手当、応急手当)、介護技術(体位変換、移乗、車椅子介助、歩行介助)、認知症対応、他職種連携とケア会議、地域包括ケアシステムと業務継続計画に焦点を当てる。これらを通じて、東洋医学の理解を深め、多職種連携による包括的なケアを目指す。</p>	主要授業科目 オムニバス形式・共同(一部)
	手技療法基礎実技Ⅰ(按摩)		手技療法基礎実技Ⅰ(按摩)では、あん摩の基本技術と全身あん摩に必要な技術を実習により学ぶ。この授業は、臨床実習の前段階として重要であり、全身あん摩と併用する運動法や物理療法の基礎を習得する。授業の到達目標は、各部位のあん摩法を学び、全身あん摩を円滑に行えるようにすることである。	主要授業科目
実習				

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	手技療法基礎実技Ⅱ(マッサージ)		マッサージは、機械、器具などを用いないで、術者の手で、体表に力学的(触れる、撫でる、揉む、押す、震わせる、叩くなど)を与えて、生体に反応を起こし、生体の調整を調える施術であることを知る。求心性に行い、血液やリンパの循環を良くして行く施術であることを知る。マッサージの運動法は、あん摩法、指圧法とは違い、基本手技の中には入っておらず、基本手技から分離されている。運動法には、他動運動法は、筋力テスト0~1、自動介助運動法は、筋力テスト1、2、自動運動法は筋力テスト3、抵抗運動法筋力テスト4.5の場合に行う。その他、漸増抵抗運動があることを知る。	
	手技療法基礎実技Ⅲ(指圧)		指圧の基本手技は、押圧と運動操作の2法であることを知る。指圧はマッサージのような基本手技はないが、単一の圧迫手技を基本とし、それに一点圧、断続圧、持続圧、軽刺激、中等度刺激、強刺激などの圧法の形式に変化、つまり複合圧として応用していくものである。それは、刺激の強度、作用時間、刺激の総量を加減調整する。特に、漸増圧、漸減圧を多く用いる場合が多いことを知る。押圧の3原則を理解する。第1の原則(垂直圧の原則)、第2の原則(持続の原則)、第3の原則(集中の原則)である。	
	鍼灸基礎実技		鍼灸基礎実技の授業では、施術に必要な基本知識と技術を学び、安全で効果的な鍼灸治療ができるようになることを目的とする。授業は、鍼の挿管法や灸の艾炷のひねり方、消毒法などの基本技術から始まり、透熱灸や管鍼法の応用技術に至るまで幅広くカバーする。評価は実技試験、筆記試験、中間実技試験を含む総合的な成績で行われる。	
	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅰ	○	スポーツ分野で鍼灸手技療法を行なう上で必要な、1)基礎知識、2)各部位ごとの外傷・障害の発症要因、発生機序を解説し、治療に必要な検査法を学修することを目的とする。また、筋疲労や骨格筋損傷、免疫に及ぼす鍼の効果に関する研究を紹介することにより鍼灸手技療法によるコンディショニング・運動パフォーマンス向上につながる知識・技術を学修する。	主要授業科目
	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅱ	○	2年次の「スポーツ鍼灸手技療法Ⅰ」を踏まえて、腰部、肩関節、膝関節などの各部位のスポーツ外傷・障害を中心に鍼灸手技療法の治療技術を修得することを目的とする。また、スポーツ現場で連携する多職種からの知識を得ることにより、専門性の高いスポーツ鍼灸手技療法師を育成する。	主要授業科目
	鍼灸臨床基礎実習		現代の医学・医療はエビデンスに基づいて行われている(EBM; Evidence Based Medicine)。一方、鍼灸治療においても近年、世界中の国々で基礎研究、臨床研究が行われ、鍼灸治療のメカニズムや臨床効果のエビデンスが報告されている。これからの鍼灸臨床も現代医学・医療と同様にエビデンスに基づいて行われるべきであり、鍼灸師がそのスキルを身につける必要がある。 本科目では、日常の鍼灸臨床で遭遇する症状や症候、鍼灸治療の適応となる症状や症候を対象に、最新のエビデンスに基づいた鍼灸治療が行えることを目的に、講義と実技を組み合わせで行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	鍼灸臨床応用実習		<p>鍼灸臨床では、まず主訴に対して問診(医療面接)を行い、問診で得た情報を基に必要な身体診察を行い、これらの情報・所見から総合的に病態を把握する。次に治療方針の決定、患者への説明を行い、鍼灸施術を行う。これらの鍼灸臨床の一連の過程を適切、安全、円滑に行うためには、知識と技術の習得が必要である。本科目は、鍼灸臨床基礎実習で学習した内容を基礎とし、さらに発展させ、主要症候に対する問診(医療面接)、身体診察、病態把握、鍼灸治療の適否の判断、治療方針の決定、鍼灸施術を実習形式で学習する。</p> <p>医療面接では、学生同志で患者役、治療者役を行い、ロールプレイ形式で、面接技法、コミュニケーション技法を学び、患者-施術者の信頼関係の重要性についても学ぶ。</p>	
臨床実習	臨床実習 I		臨床実習では、鍼灸手技療法の基礎知識と実技を学ぶ。カリキュラムは、必要な理論知識の習得、治療の見学、治療環境の整備に重点を置く。実践的な学習と臨床現場における業務上の洞察に重点を置き、治療院業務の理解と患者との基本的な交流の練習も含む。	
	臨床実習 II		臨床実習では、鍼灸手技療法の基礎知識と技術を習得し、理論、観察、治療環境の準備、臨床記録の作成補助に重点を置く。授業で学んだ基本的な治療技術や患者との接し方を講師の指導のもとで応用し、患者への直接的なケア、初期評価、簡単な治療計画を立てながら、臨床能力と理論的な理解を深めます。	
	臨床実習 III		臨床実習で学生は鍼灸手技療法の知識と技術を学ぶ。プログラムは治療の理論、観察、環境準備に重点を置き、実践を通じて臨床能力と理論知識を深める。臨床判断力と治療計画のスキルを高め、包括的な治療計画の立案や実施、患者の反応に基づく治療計画の調整に携わる。	
	臨床実習 IV		臨床実習では、学生は鍼灸手技療法の基礎と応用を学ぶ。臨床実習は理論習得、施術観察、環境準備に焦点を当て、鍼灸治療の補助を含む。目標は臨床能力と理論知識の向上、高度な治療技術の習得、学際的協力、専門能力の開発にあり、教員の指導下で批判的思考と専門活動を臨床現場で実践する。	
統合領域	ヘルスプロモーション鍼灸学	○	「健康予防鍼灸学」の授業では、鍼灸医学を通じて 21 世紀の医療、特に疾病予防と健康増進に焦点を当てる。前期では、国民の健康状態、予防医療、東洋医学の未病概念などを学ぶ。また、女性の健康や生活習慣病に関する知識も扱う。後期では、鍼灸と補完代替医療の組み合わせに重点を置き、これらの治療法の経済効果や医療費についても学ぶ。グループ発表やディスカッションを通じて理解を深める。	主要授業科目
	デジタルサイエンス伝統医療(入門)	○	この授業は、データサイエンスと AI の基本概念、それらの伝統医療への応用を学ぶことを目的とする。前期では、データの収集や処理、統計学の基礎、基礎・応用演習などを通じて、データの見方と考え方を掘り下げる。後期には、ビッグデータの理解、機械学習、人工知能といった先進的なトピックを取り上げ、医療分野でのこれらの技術の活用方法に焦点を当てる。この授業を通じて、データサイエンスの基本的なスキルを身につけ、将来の医療業界で求められるデータ駆動型のアプローチを理解し、適用する能力を養うことを目指す。実践的な演習と学生主導のグループワークや発表を通じて、理論と実践の統合を図りながら、批判的思考と問題解決能力を養成する。	主要授業科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	手技療法 応用実技 Ⅰ	○	筋筋膜トリガーポイントは、痛みを訴える患者の多くが自覚しているが、その部位を押すと痛みが強くなり更には関連領域に放散するという性質を有しているため、痛みの診断と治療に応用範囲が広まることが分かっている。このことを臨床に応用できるようにしたい。天城流湯治法の3つの技法は、凝っている部位の筋膜を「ゆるめる」「のぼす」「ほぐす」方法である。筋膜をゆるめることによって凝りの多くは弛緩する。また筋膜が骨に癒着して痛みがあり、関節の動きが制限されていることが分かってきており、その部位の癒着をはがして解放すると症状が瞬時に改善することができる。この技法はこれまでの手技療法の効果を拡大することができるため、この技法を具体的に学ぶ。	主要授業科目
	手技療法 応用実技 Ⅱ	○	世界の手技療法を詳細に検討すると、いずれの手技療法も日本古来の伝統あんま術の応用であることが理解できる。学生には、特殊な技術の習得だけにとどまらず、技術の基礎を身につけてほしい。そのためには基礎知識として基礎科目である解剖生理、病理が不可欠であることを理解させたい。	主要授業科目
	関節モビライゼーション・操体法		関節モビライゼーションでいう、関節機能障害とはどういうものか。直接法と間接法の違いは、何か。特に注意する事は何か等々を知るようにする。上肢、下肢、骨盤、脊柱の動き方を知るようにする。指関節、手関節、肘関節、肩関節、股関節症、膝関節症、足関節、仙骨、腰椎、胸椎、頸椎の関節モビライゼーションの直接法、間接法が出来るようにする。 操体法の四つの基本行動について知るようにする。特に、身体運動、腹式呼吸について、操体法は、快方向に操作することを知るようにする。仰臥位での足、腰、肩、首、上肢の操作方法、伏臥位での下肢、腰、肩の操作方法、座位での足、腰、肩、上肢の操作方法を理解するようにする。	
	通電療法	○	この授業は、通電療法の歴史と基本的な知識、さまざまな種類のパルス技術、特定の症状に対する治療法を学ぶ。低周波鍼通電療法や筋肉パルス、神経パルス、皮下結合組織パルスなど、具体的な技術について実習を通じて理解を深める。授業では、安全で効果的な施術方法を実践的に学び、臨床技術の向上を目指す。	主要授業科目
	鍼灸手技療法経営論		近年、鍼灸院や競合する整骨院、整体院などが急増している。この様な状況で鍼灸院を開業し、安定して経営するには十分な準備と経営のスキルが必要である。本科目では、鍼灸治療院の開業に必要な基本的事項について学習し、開業の準備に関する知識を学習する。鍼灸院を開業するにあたって、それなりの工夫と調査が必要であり、本科目ではそれらの基本事項を系統的に学習する。	